

企業・団体や個人のニーズに応じた 参加体験型の実践教育を展開

全国7カ所にあるHondaの交通教育センターでは、安全教育の指導者養成や、企業・団体、学校、個人のお客様を中心に参加体験型の実践教育により、スキルアップとともに安全運転への気づきと理解を促すための教育を行っています。今年度は約8万人（10月末現在）の方にご利用いただきました。



HDSP※を活用した運転集中度検証

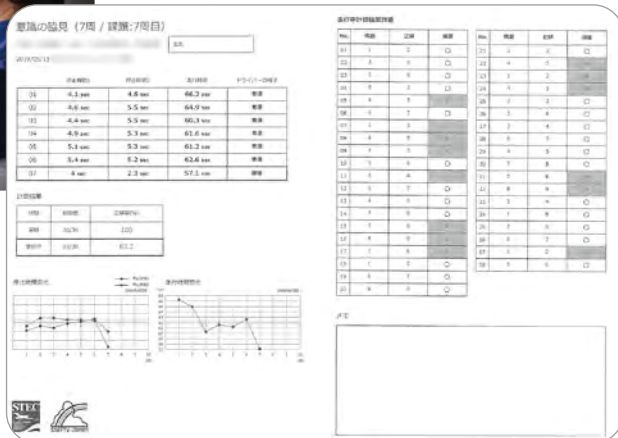
独自のシステムを活用し 効果的な安全運転教育を実施

企業・団体向けには、車両の使用状況や、事故実態に即したオリジナルプログラムを提供しています。

Hondaは独自に開発した運転評価システムHDSP※を今年、運転集中度検証（意識の脇見検証）というプログラムに導入し、鈴鹿サーキット交通教育センターで運用を開始しました。このプログラムは運転中の携帯電話等の使用はもちろん、考え事や同乗者との会話なども「意識の脇見」へとつながり、安全運転を阻害する要因となる場合があることを受講者自身に認識してもらうことを目的としています。

Hondaのインストラクターの 指導力向上と均質化をめざす

Hondaのインストラクターの指導力ならびに安全運転技術の向上と均質化を図る場と機会の提供を目的に「セーフティジャパンインストラクター競技大会」を1997年から開催しています。20回目となる今年度は、国内の交通教育センターや事業所から38名、海外の8の国と地域から37名のインストラクターが参加。二輪部門と四輪部門に分かれ、それぞれ3種類の競技を行うとともに、指導力とコミュニケーション能力の向上をめざし、「安全運転のための感情コントロール」についてグループディスカッションを実施しました。各国の交通状況を理解しながら、様々な意見を交換することで、各々がインストラクター活動に役立てるヒントを持ち帰りました。



受講者に配付する運転集中度検証の測定結果（イメージ）

運転中に計算問題に答えることで「意識の脇見」をする状況をつくり出し、その際の運転行動をHDSPによって可視化。通常時と比較することで、「意識の脇見」が運転に及ぼす影響を受講者に気づかせます。このほか、福祉施設の送迎運転者向けの研修（ケアドライブ）でも「同乗者に安全なやさしい運転」を明確化するため、HDSPを導入しました。

※2018年から活用されている独自の運転評価システム「Honda Driving Style Proposal」の略。



二輪競技部門